JIJI PRESS 時事通信社

コメントライナー

第6124号　　2017年1月19日（木）

◎「私、失敗しないので」のキャリア心理学

東京成徳大学教授・筑波大学名誉教授（心理学）　石隈　利紀

テレビの人気ドラマ「ドクターX」に登場する主人公の医師・大門未知子（主演：米倉涼子さん）は、大学病院のフリーランスの外科医。難しい手術に次々と成功する。権威、名誉、出世に関心をもたず、手術を趣味とする。そのドクターXの決めせりふが、「私、失敗しないので」である。傲慢に聞こえるこのことばは、患者には心強いとともに、専門家の生き様を表していて気持ちがよい。「失敗しない」の仕事ぶりに、キャリア心理学の視点からコメントする。

◆手術にすべてを尽くす決意

ドクターXは、手術を「成功と失敗」でとらえているわけではない。まして失敗をなかったことにしてごまかそうとしているわけでもない。患者を元気にするという医師の責任感から、患者の状態の見立てを徹底的に行い、手術の方法を検討し、あきらめずに治療をやりきるのである。権威や名誉にとらわれることなく、またフリーランスゆえ組織内の人間関係に配慮することもない。患者と向き合うことにすべてのエネルギーを使うことができる。治療の成功にすべてを尽くすのは、医師としての倫理であり、それがまっとうされている。これは心理職や教師にも通じるところがあり、私も共感する。

◆高度な専門的スキルと倫理感

困難な手術を行うには、高度な専門的スキルが必要である。ドクターXは船医、軍医、獣医のライセンスをもち、僻地医療の経験などからたたき上げたスキルをもっている。設備が整わない僻地や戦場での治療を通して蓄積した幅広い知識と技術が、手術の成功を支えている。自らの専門的能力を磨き続けるのは、医師にとっても、心理職や教師にとっても、やはり倫理である。能力の向上に限界はなく、学び続けることが専門職の使命である。

◆チームと相棒の存在

ドクターXは、同僚の医師らと仲良くする気持ちはない。人間関係を維持するソーシャルスキルも低いほうだろう。「上司」には「御意（YES）」という人ばかりの職場で、ドクターXは「いたしません（NO）」を平気で言う。しかし難しい手術では、仲間の医師はドクターXに巻き込まれ、協力する。それは患者を治すためにベストを尽くし、高いスキルをもっているドクターXを、医師らが尊敬しているからである。さらにドクターXには、「名医紹介所」の所長（演じるのは岸部一徳さん）が相棒としてついている。愚痴を聞き、ときには手術のアドバイスをする。相棒の支えがあって、ドクターXは失敗しない仕事を続けることができる。

職業への決意（コミットメント）、専門的な力、チームと相棒の支え・・・職業生活や社会生活（キャリア）を進める上での、重要な条件と言える。ドクターXのキャリアは輝いて見えるが、本人にとってはごく自然で、生きていることを感じる、自分らしい在り方なのだろう。私の周りにも、「失敗しないので」というプロがいる。

（いしくま・としのり）

◆監修◆ 内外情勢調査会　　◆委託編集◆ 時事総合研究所

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8　TEL：03-6800-1111（代表）

この記事に関する問い合わせは、**時事総研（03-3546-2384）**まで

本稿の一切の情報について、無断転載・複写をお断りします。©時事通信社 2003